

S.A.C. 2nd GIG EDITION

OFFICIAL LOG ① 神山健治×羽海野チカ 対談

神山健治 羽海野チカ

『攻殻機動隊 S.A.C. 2nd GIG』監督・シリーズ構成・脚本

マンガ家(『ハチミツとクローバー』) / 集英社『YOUNG JUMP』連載中

「2nd GIG」と「ハチクロ」の遠くて近い関係

文・構成 藤津亮太

(対談の前にI.Gの制作ルームを見学したあと) 9スタは、もっとぼっちですよ(笑)——神山



美大生たちの青春群像を描く『ハチミツとクローバー』(通称『ハチクロ』)で現在、人気沸騰中のマンガ家、羽海野チカ。神山健治監督がかねてから『ハチクロ』のファンということで今回の対談が実現した。『機動警察パトレイバー 2 the Movie』『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』などのI.G作品のファンだという羽海野さん。かねてから気になっていたという『S.A.C.』をすべて見た上で、対談に臨んだ。対談の内容は、キャラクター作りやストーリー作りなどの創作論から、「天才論」まで広範にわたり、対談時間は3時間に及んだ。このロング対談のエッセンスをお届けする。

(ダイアログを大切にしながら構成する)

神山 羽海野さんの『ハチミツとクローバー』(★1)は、脚本家の佐藤 大さんという人が、僕に薦めてくれたんです。「監督、絶対好きだよ、読むとハマるよ」って。それで読ませてもらったら、ダイアログをすごく選んで考えて書いているのが伝わってきた。僕もシナリオをいじる時はキャラクターのセリフを大事にしているつもりなんですが、そのセリフが「すごい」って思いました。例えばひとつ挙げるなら——「人が恋に落ちる瞬間を見てしまった」って真山君が言うところ(★2)。あれは衝撃でした。「こんな言葉を発明する人がいるのか」と。それ以外にもすごく詩的でいいセリフがたくさんあって、もうどれかって選べないくらいです。僕は言葉の力を結構信じているほうなので「こんな言葉を発明する人がいるのか、どうやって考え出しているんだろう」とずっと思っていました。それでこの間、羽海野さんがWEBで書かれている日記(★3)を読んでいたら、まるで僕の疑問に答えるかのようなことが書いてあって(笑)。日常でいい言葉を聞いたり思いついたりしたらメモしているというようなことが書かれていますよね。

羽海野 どうもありがとうございます。『ハチク

ロ』の場合、最初は前後編で考えた物語なので、お話は一応頭の中で最後まで出来ています。今はそれをグーッと伸ばして、その間にいろんなエピソードを入れて描いている状態ですね。だから歩いてたり、電車に乗っていたりしても、ランダムに「あのシーン、あのセリフにしよう！」とか浮かんでくるんです。それをメモして、あとで全部メンディングテープで貼り付けて並べ替えたりしながら構成しています。

神山 例えば何か小説読まれたり、映画を見たりしてインスパイアされた言葉とか、いつか使おうみたいな感じでメモされるんですか？

羽海野 それだと本当に元のものと同じになっちゃいそうなので、今はあまり読んだり見たりしませんが。残っちゃうから。少女マンガもなるべく読みません。少年マンガは、元気をもらうために読んだりするんですけど(笑)。

神山 影響されちゃうってことですね。

羽海野 ただ、なるべく言葉を短くしたいので、詩とかは読むようにしています。

神山 マンガの場合、あまりネームが長すぎると読みづらいからでしょう。アニメに比べるとマンガは遙かにセリフが短いんですよね。それもあって『ハチクロ』は読んでいて詩のようだって、思うところが何か所もありました。僕は、わりとドラダ

暮らしてる人もいますか？ (かつてはそういうスタジオもあったと聞いてビックリ)——羽海野

